様式　2

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

＊科目 No.	2908

科目概要記入欄

1. 開設大学名	島根県立大学			科目開講キャンパス	浜田キャンパス	
2. 科 目 名	正式科目名	国際機構論			クラス名	
	副題				配当年次	2,3
					受入学年	
	旧科目名					
	学問分野	番号	42	名称	国際関係	
	サテライトで開講される科目の科目群			Ａ群	Ｂ群	
3. 担当教員名	庄司　克宏					
4. 単 位 数	2 単位		5. 開講学期	春（集中）		
6. 開講期間 曜日・時間	調整中					
個別開講日	1 回目　／	2 回目　／	3 回目　／	4 回目　／	5 回目　／	6 回目　／
	7 回目　／	8 回目　／	9 回目　／	10 回目　／	11 回目　／	12 回目　／
	13 回目　／	14 回目　／	15 回目　／	16 回目　／	試験日　／	
7. 基礎知識の有無	1.「基礎知識を必要とする科目」　（　　） ②.「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 （総授業定員）	5　人 （　　人）		9. 定員超過時の選考方法	書類選考		

10. 科目内容・授業計画	政府間国際機構についての基礎を踏まえた後、EU の機構および活動を概観し、普遍的国際機構（例えば、安全保障について国連、通商について WTO、通貨について IMF、開発援助について世界銀行、難民問題について UNHCR など）をとりあげて EU と比較する。また、アジアにおける地域統合の可能性についてもふれる。 補完性原則により、EU では国家との関係だけでなく、地方自治体との関係も重視されている。その点を日本政府と島根県の関係に投影して比較検討することも行いたい。 質疑応答による双方向型授業を行う。 【到達目標】 　グローバル化に伴い、国際社会における国家間の関係が緊密になるにつれて、どのような現象が生じ、いかなる対応が必要となるかについて、EU の先駆的な試みを他の国際機構と比較しつつ参考にしながら、自ら考えることができるようになること。 【授業計画】 第１回　授業の全体にわたる問題提起として、国際社会における国際機構の役割と限界について考える。 第２回　国際機構の基礎知識として、定義、分類、歴史、組織、意思決定について学習する。 第３回　地域統合の基礎知識として、欧州を事例に、歴史、組織、意思決定について学習する。 第４回　国際機構の活動（１）：安全保障①　国連が普遍的国際機構として国際安全保障にどのように貢献し、いかなる限界があるのかを考える。 第５回　国際機構の活動（２）：安全保障②　地域的国際機構として NATO と EU を取り上げ、安全保障上の役割の相違について考える。 第６回　国際機構の活動（３）：通商①　WTO が普遍的国際機構として通商の自由化にどのように貢献し、いかなる限界があるのかを考える。 第７回　国際機構の活動（４）：通商②　地域的国際機構として EU と ASEAN を取り上げ、通商の自由化における役割の相違について考える。 第８回　国際機構の活動（５）：通貨・金融①　IMF が普遍的国際機構として通貨･金融の分野でどのように貢献し、いかなる限界があるのかを考える。 第９回　国際機構の活動（６）：通貨・金融②　地域的国際機構としての EU に設置されている欧州中央銀行（ECB）を取り上げ、どのように金融政策を行っているのかについて考える。 第 10 回　国際機構の活動（７）：開発援助①　国連と世界銀行が普遍的国際機構として開発援助の分野でどのように貢献し、いかなる限界があるのかを考える。 第 11 回　国際機構の活動（８）：開発援助②　地域的国際機構としての EU がどのように開発援助を行っているのかについて考える。 第 12 回　国際機構の活動（９）：人権①　国連が普遍的国際機構として人権分野でどのように貢献し、いかなる限界があるのかを考える。 第 13 回　国際機構の活動（10）：人権②　地域的国際機構としての欧州審議会（および欧州人権裁判所）と EU が人権保護にどのように取り組んでいるのかについて考える。 第 14 回　事例研究：補完性原則に基づき、EU、国家、地方自治体の関係から日本政府と島根県の関係について考える。 第 15 回　結論：国際機構の未来と国家の在り方 【テキスト】 庄司克宏著『欧州連合　統治の論理とゆくえ』岩波新書、2007 年(定価 777 円) ☆刊行以来、数回大幅加筆しているため、最新改訂版の 2016 年 7 月第 10 刷を入手すること。毎回授業で参照し、小テストにも使用するので、最初の授業から必ず持参すること。 【参考文献】 参考書：　庄司克宏編『国際機構』岩波書店、2006 年		
11. 試験・評価方法	成績評価は、下記(イ)と(ロ）の合計点による。レポートなし。 （イ）授業での小テスト（教科書とノート持込可）4～8 回（計 60 点） （ロ）最終回に教科書の内容に関する試験（教科書のみ持込可）（40 点）を行う。		
12. 別途負担費用			
13. その他特記事項	楽しい授業にしたい。		
14. サテライト科目の社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否